

## イギリスにおける国・地方間の係争処理

北島 周作

### ■1. 地方政府の位置づけ

#### (1)沿革

・19世紀まで治安判事、アドホックに作られた委員会などが混在。その後、地方政府組織の組織構造の統一化がはじめられ、19世紀末には、カウンティカウンシル、ディストリクトカウンシルなどの民主的な地方政府。

・1972年法においてカウンティ（県レベル）とディストリクト（市レベル）の二層構造が採用。

#### (2)法的位置づけ

・憲法原則において地方政府がなんらかの位置づけがなされているということはない。議会主権原則のもとで、地方政府は制定法の産物であるとされ、その存在とその権限について制定法に依拠する。権限を持たない活動については行うことができず、行った場合は権限踰越（ultra vires）で違法となる。

→ 従って、地方政府は、制定法によって権限を与えられていない活動については行うことができない。

→ 権限取得のために議会に私法律案（private bill）を求める権限が与えられている（1972年地方政府法（Local Government Act）s.239）。また、個別法により大臣が命令により権限を与える場合あり（Statutory Orders (Special Procedure) Act 1945）。

・権限の範囲は、関連する制定法の文言による。黙示的に授権されていると解釈される場合も含む。

・1972年地方政府法には一般条項規定が置かれている（s.111）

「地方公共団体は、その活動を実施を促進、または有効であり、付随的と考えられる全てのことを行う権限を持つものとする」

→ ただし文言ほど包括的なものではない。スワップ取引契約を権限の範囲外としたものとして、*Hazell v. Hammersmith and Fulham LBC* [1992] 2 AC 1.

→ 2000年地方政府法は、地方公共団体は、「地方共同体の経済的、社会的、環境的福利を促進すると考えられる事柄」を行う権限を持つとしている（s.2）。

・条例の制定権。1972年地方政府法 s.235 と個別法に根拠。ただし、当該事務を所掌する大臣による承認が必要。

・法的位置づけと実態。議会主権のもとで地方政府が中央政府に完全に服属するという法的位置づけ（国の事務と地方の事務の区別は法的にはなし）に対する、現実的尊重・相互依存関係（国地方の伝統的關係（Martin Loughlin））。ただし、1980年代以降中央地方間の対立が激化し、崩壊。

### ■2. 中央政府による地方の関与の方法

#### (1)報告書の要求

・1972年地方政府法 s.230 に一般的な規定。

「全ての地方公共団体、全ての合同委員会、全ての地方公共団体の合同委員会は、大臣が

要求するとき、またはどちらか片方の議院が要求するときは、大臣に報告書を提出し、自らの活動についての情報を与えるものとする」。

## **(2)命令**

- ・ 1998年 School Standard and Framework Act s.19 (大臣による学校閉鎖命令)
- ・ 1980年 Local Government, Planning and Land Act 1980 s.98 (大臣による土地処分命令)

## **(3)義務履行命令、Default Powers**

・ 著名なものとして、1999年地方政府法 s.15 (ベストバリューについての大臣の義務履行命令)

大臣は地方公共団体に対し義務の履行を命じることができる。大臣は、命令において定めた期間等を超えた場合において、当該行為が大臣自身または大臣が指名する者によって行われるものとするることができる (ss. 6)。手続としては、弁明の機会等を与えた上で (ss.9)、命令がなされる。最終的な義務履行確保は、大臣の請求によるマンデイマス (Mandamus、義務付け) の方法によって執行される (ss.13)。

- ・ 義務履行命令と司法的執行方法が組み合わされている。
- ・ マンデイマスは大権的救済手段の一つ。大権的救済方法としては、マンデイマスのほかに、サーシオレイライ (Certiorari、移送)、プロヒビション (Prohibition、禁止)。
- ・ 制定法によりマンデイマスの方法によると書かれていることが多いが、なくても利用可能と考えられる。
- ・ 利害関係人の申立てを想定する場合もある。

ex. 1944年 Education Act s.99

「大臣は、利害関係人の訴えその他に基づき、地方公共団体が法律上の義務を果たしていないと考えるときは、命令により不履行であることを宣言し、大臣がその義務を履行するのに適切であるとする指示を与えることができる」

→ 私人が司法審査を求める場合にこの救済ルートの評価が問題とされる場合がある。

・ 義務履行命令を出す大臣の権限が大きいのが特色。発動の法的要件自体緩い。また義務の内容についても大臣が具体的な内容について指示するが多い。

→ ただし、大臣の裁量が限定的に解釈される場合もある (Secretary of State for Education and Science v. Tameside Metropolitan Borough Council [1977] A.C. 1014. 地方選挙の結果が影響?)

## **(4)上訴の処理**

・ 地方公共団体の行為に対し大臣に上訴 (appeal) できると定められている場合がある。例えば、Town and Country Planning Act 1990.

## **(5)支出のコントロール**

- ・ 1982年の地方財政法 (Local Financial Act 1982)、会計検査委員会 (Audit Commission)。
- ・ Audit Commission Act 1998. 検査官は、裁判所に法違反の宣言を求めることができる (s.17)。検査官は、会計に影響すると考えられる作為不作為について、司法審査を求めることができる (s.24)。

## **■終わりに**

- ・ 中央政府による一方的な統制
- ・ 中央政府・地方政府間の紛争処理における裁判所 (司法審査) のプレゼンス。

## Default powers

A list of and description of all the default powers identified as being available to the Government in relation to the functions of local authorities is set out at H.C. Deb., Vol. 58, col. 249, April 11, 1984. The following is the list of provisions identified:

出展  
[1984] Public Law  
785-786

Employment:	Health and Safety at Work Act 1974, s.45; Petroleum (Consolidated) Act 1928, s.7.
Education and Science:	Education Act 1944, ss.68 and 99; Sex Discrimination Act 1975, s.25; Race Relations Act 1976, s.19.
Arts and Libraries:	Public Libraries and Museums Act 1964, s.10 (as amended by Local Government Act 1972, s.10).
Trade and Industry:	Weights and Measures Act 1979, s.8; Consumer Safety Act 1978, s.5(2) and Schedule 2, para. 1.
Transport:	Highways Act 1980, s.285; Road Traffic Regulation Act 1967, ss.55, 62, 69, 70, 84 and 84(A).
Environment:	Public Health Act 1936, ss.322-325 (as amended by Local Government Miscellaneous Provisions Act 1976, s.27); Clean Air Act 1956, s.31(1); Clean Air Act 1968, s.8(4); Control of Pollution Act 1974, s.97; Rent Act 1977, s.64; Housing Act 1957, ss.18(2) and 76; Housing Act 1980, ss.23, 24 and 110; Refuse Disposal (Amenity) Act 1978, ss.1(5), 1(6) and 3(9); New Town Act 1981, s.46(6); Town Development Act 1952, s.9; Local Government, Planning and Land Act 1980, s.17; Caravan Sites Act 1968, s.9; National Parks and Access to Countryside Act 1949, ss.91(1), 99(3) and 13(4)-(6); Local Government Act 1972, Schedule 17, Part 1, paras. 8, 9, 14 and 16; Wildlife and Countryside Act 1981, s.46; Coast Protection Act 1949, ss.15, 20 and 29; Town and Country Planning Act 1971 (as amended), ss.17, 276(1), (4), (5)(c) and (d) and (6); Town and Country Planning (Control of Advertisement) Regulations, reg. 28(2); Town and Country Planning (Enforcement Notices and Appeals) Regulations, reg. 9.
Health and Social Security:	National Health Service Act 1977, s.85; Mental Health Act 1959, s.142; National Assistance Act 1948, s.36; Chronically Sick and Disabled Persons Act 1970, s.2; Disabled Persons Employment Act 1958, s.3(4); Social Security and Housing Benefits Act 1982, s.31(2).
Agriculture, Fisheries and Food:	Animal Health Act 1981, s.59(1); Prevention of Damage by Pests Act 1949, s.12; Medicines Act 1968, s.108(10); Agriculture Act 1970, ss.56 and 67(8); Food and Drugs Act 1955, ss.127 and 131 and Part I of Schedule 9; Slaughter Houses Act 1974, Part I, s.32.
Home Office:	Representation of the People Act 1983, s.18(5); Representation of the People Act 1949, s.11(4) (as expanded by Local Government Act 1972, Sched. 6, para. 5(3)); Civil Defence Act 1948, s.2(2)(c) (as applied by Civil Defence (General) Regulations 1949, reg. 4); Police Act 1964, s.14(2); Police (Grant) Order 1966 (S.I. 1966 No. 223), s.2; Fire Services Act 1947, s.19 (as amended by Fire Services Act 1959, s.7) and s.33 (as expanded by Fire Precautions Act 1971, s.29 and amended by Local Government Act 1972, s.272).
Population, Censuses and Surveys:	Registration Service Act 1953, ss.6(1), 10(3) and 14(5).